



平和と若い女性のセーフスペースのための 日韓 YWCA 共同声明

私たち日本 YWCA と韓国 YWCA（以下、日韓 YWCA）は、世界 YWCA が提唱する若い女性たちと共に歩むセーフスペース運動の実践について分かち合うため、「YWCA が若い女性に提供していけるセーフスペースとは？～人権・平和・居場所～」というテーマで、日本の神奈川県において第 12 回日韓 YWCA カンファレンスを 4 日間開催しました。

私たちは、日韓両国がこれまで経済的、社会的発展を成し遂げてきたにもかかわらず、女性たちが日常生活において差別と排除、ヘイトと不平等に直面していることを再確認しました。

光復 80 年の現在に至るまで、在日コリアンは自らのアイデンティティに対する否定、就職差別、社会保障からの排除など構造的差別を受けてきました。彼らの生活環境を改善するため、在日キリスト者のコミュニティと在日コリアン女性たちは、沈黙せず行動してきたことを私たちは知りました。また、在日コリアンの人々は、共感をもつ日本市民とともに、ヘイトに抗する差別禁止条例を作る運動の先頭に立ってきており、お互いに配慮し合う包摂的な多文化共生社会を作るために、今も努力をしていることに深く感動しました。

私たちは歴史を振り返ることを通じて、次のような問題に向き合うことができました。
差別とヘイトに対し、私たちはどのように応答しているのか？
YWCA は誰の苦しみに注目しているのか？

私たちは困難を抱える若い人たちの痛みに共感し、多様な方法で向き合っていることを共有しました。私たちは「若い女性のエンパワメントを通じて社会を変革する」という YWCA のミッションに従い、困難な状況においても、揺るがず持続的に行動してきたことを確認しました。

日本 YWCA からは、以下の報告・問題提起がありました。

日本の戦争責任について、若い世代が歴史修正主義に影響を受けている問題が共有され、ともに生きるために、社会に何が必要かを語り合えるセーフスペースの必要性が提起されました。

国内の米軍基地の 70% が集中する沖縄では、基地がある故のジェンダー暴力や、住民の意志が無視される構造的差別が続いている現状を共有しました。

各地域 YWCA では、様々な理由で困難を抱える若い女性たちと積極的に出会い、物理的・精神的に安全な空間である居場所を提供し、自分らしく生きる人生を応援しています。家族と暮らすことができず、社会的養護を必要とする少女たち、心身の不調を抱えて就学、就労が難しい若者たち、人間関係に傷つき孤独や不安を抱えながら社会で孤立化しがちな若者たちが、生活が保障され、十分な食事を得て、尊厳を取り戻し、心身のダメージを回復するエンパワメントの場を提供しています。

また、平和を創る活動においても、ユースとともに戦争体験の記憶を継承し、多世代が意見を表明できるセーフスペースを提供しています。

セーフスペースとは、単に暴力のない物理的空間ではなく、過去の傷を正義に基づいて回復し、

女性が主体性を取り戻し、恐れることなく自己表現ができる場所ととらえています。

そしてそこでは、一人ひとりの尊厳が守られ、違いを豊かさとして喜び合え、新しい関係性が構築される場所であると信じています。

韓国 YWCA は、日本の植民地時代、南北分断、独裁による国家暴力だけでなく、構造的な性差別によって、今日の若い女性たちがオンライン・オフライン空間で経験する差別、ヘイト、暴力の現実注目しました。特に、最近バックラッシュが深刻化し、女性政策の無力化、フェミニズムへの攻撃など、女性たちが自身を守り、声を上げられる社会的基盤さえも弱まっている状況です。そうした中で、連帯と分かち合いを基盤に社会の変化を生み出した 10 代・20 代・30 代の女性たちの事例を共有しました。

また、韓国 YWCA はユースが組織の意思決定に積極的に参加するガバナンス構造を構築し、地域社会で青少年が自由に自分を探求し、主体性とリーダーシップを発揮できる空間や施設、プログラム、協議体などを運営するなどの実践事例を共有しました。

日韓 YWCA は次のような立場を共有していることを明らかにします。

私たちはセーフスペースがただの物理的空間ではなく、お互いを尊重し、常に自らを省み、互いにつながるいきいきとした社会実践であることを認識し、若い女性が自分らしく生き、権利が守られる社会を作るために、実践のための協力を続けます。

私たちは多文化社会である現代社会において、在日コリアンをはじめとするマイノリティーに対するあらゆる形態のヘイトと差別に反対します。

私たちは、政府や教育機関、メディアが差別とヘイトを拡散する構造を反省することと、誰もが平和的に共存・共生できる制度的基盤（立法など）を整備することを促します。

私たちは、日韓の市民社会が手を取り合い、ヘイトのない平和な東アジアを目指して、連帯を続けていくことを誓います。

日韓今後の共同行動

1. 経済的・心理的不安と構造的暴力が、社会的に脆弱な個人の問題ではなく、すべての女性と若者にあてはまり、必ず解決しなければならない社会問題であるという認識を広めます。
2. 若い女性が集い、経験を分かち合い、自分たちを取り巻く社会的な課題/問題（議題）を議論できるネットワークを形成し、プログラム協力を推進します。
3. 若い女性がリーダーシップを発揮して、自分たちに必要な社会・政治・文化活動を自ら企画・運営できるよう、機会と地域社会に根差した空間を創出します。
4. セーフスペースの構築と持続的な運営のために、国および地域社会の人材・物的資源を積極的に見つけ出し、若い女性につなぎます。
5. セーフスペースの実践事例とノウハウを記録し、東アジアにおけるセーフスペースの実践経験を蓄積し、活用します。

今回のカンファレンスを皮切りに、日韓 YWCA はお互いの経験を分かち合い、共に学びながら、ユース世代とともに、差別のない世界と平和な共同体を引き継いでいくための行動を続けていきます。

2025 年 7 月 23 日

日韓 YWCA カンファレンス参加者一同